

平成 18 年 4 月 4 日

2 号機気水分離器等貯蔵プールの漏えい検知配管の監視について

平成 17 年 4 月 22 日および 25 日、定期検査中の 2 号機において、気水分離器等貯蔵プール*¹からの漏えいの有無を確認する配管のレベル計*²内に溜まった水を分析したところ、微量の放射性物質（コバルト 60 等）が検出されたことから、レベル計の確認頻度を 1 日 1 回から 1 日 3 回に増やすとともに、溜まった水について継続的に分析を行うこととしておりました。

なお、溜まった水は放射能分析を行った後、液体廃棄物処理系で処理しており、これによる外部への放射能の影響はありません。

（平成 17 年 4 月 25 日お知らせ済み）

その後、プラントの起動準備のため当該プール内の水抜きを実施したことから、平成 17 年 6 月 8 日より、レベル計の確認頻度は 1 日 1 回としておりました。また、当該プールと原子炉との仕切りゲート部付近について、漏えいの有無の調査を行いました。異常は認められませんでした。

なお、当該プールは通常、定期検査時に使用することから、次回定期検査前までに漏えい箇所の調査を行うこととしておりました。

平成 17 年 7 月 4 日より発電を開始した同号機は、平成 18 年 3 月 14 日に故障した原子炉再循環ポンプ*³（A）のインバータ*⁴を点検するため、3 月 20 日に発電を停止し、併せて原子炉内に装荷されているハフニウム板型制御棒の取り替えを行うこととしておりました。

（平成 18 年 3 月 20 日お知らせ済み）

今回の制御棒取り替え作業にともない、気水分離器等を当該プールに移動することから、平成 18 年 4 月 2 日から当該プールへの水張りを開始し、水張り終了後は、検知配管内に溜まった水の量の確認*⁵頻度を再び 1 日 1 回から 1 日 3 回に増やすとともに、放射能分析を行うこととしました。

なお、現在、検知配管内に溜まる水の量は約 0.5 リットル／時程度であり、微量の放射性物質（コバルト 60 等）が検出されております。また、溜まった水は放射能分析を行った後、液体廃棄物処理系で処理しており、これによる外部への放射能の影響はありません。

制御棒の取替作業終了後に、漏えい箇所の調査を行います。

以 上

* 1 気水分離器等貯蔵プール

定期検査時に燃料を取り替える際等に、プールに水を張り、原子炉圧力容器内燃料上部にある蒸気乾燥器、気水分離器を取り出し、保管している。

* 2 レベル計

気水分離器等貯蔵プールにはステンレスによる内張りがされており、内張りからの漏えいを検知するため、内張りの外側に溝を設置し、溝からの流れをレベル計にて確認できるようになっており、内張りと溝の間に発生する結露水についても同レベル計に溜まる。

* 3 原子炉再循環ポンプ

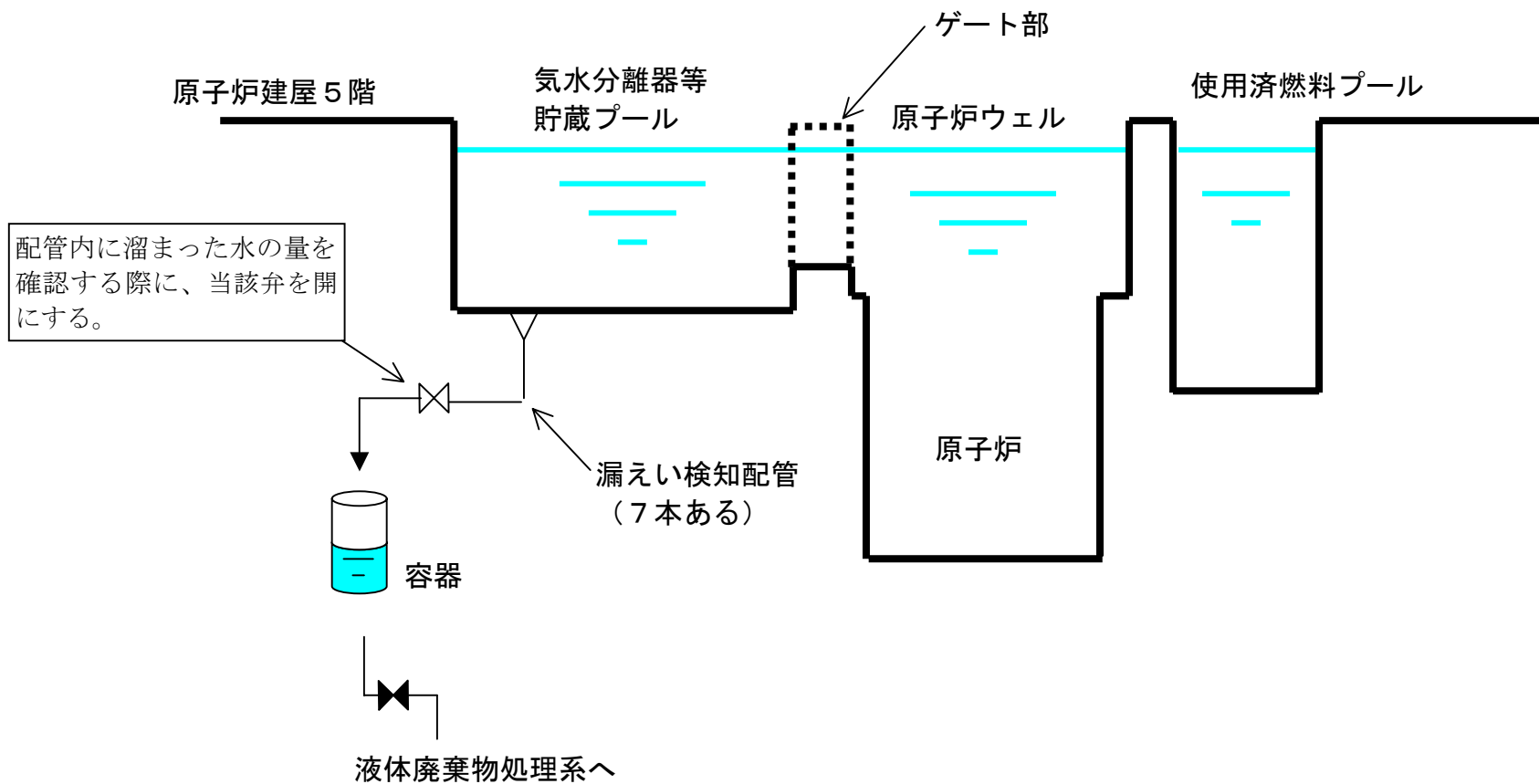
原子炉圧力容器の中の水（冷却材）を循環させるポンプで、運転中はポンプの回転数（スピード）をインバータで制御することにより、原子炉の出力をコントロールしている。このポンプは2台設置されている。

* 4 インバータ

直流電源を所定の周波数の交流電源に変換する装置。

* 5 検知配管内に溜まった水の量の確認

気水分離器等貯蔵プールからの漏えい量を確認するため、計量可能な容器を設置し確認する方法に変更した。



2号機気水分離器等貯蔵プール漏えい検知の概略図